

1 浜松市沿岸の津波対策について

1) 防潮堤の整備状況

浜名湖今切口から天竜川までの沿岸約 17.5 km の防潮堤本体が令和 2 年 3 月に竣工し、11 月 15 日に竣工報告会を開催した。

2) 馬込川河口部の津波対策

静岡県と浜松市が 4 月 24 日に公表した馬込川水系河川整備計画のなかで、馬込川河口の津波対策として正式に「水門方式」を位置付けた。現在、馬込川水門の設計を進めるとともに、水門の準備工事となる仮締切工事の 1 月契約に向けて入札手続きを進めている。

なお、浜名湖へ遡上する津波を減衰させるため、今切口西側（湖西市側）において、浜松市側の防潮堤の対になる命山の築造、防潮堤の嵩上げを実施している。

2 大規模豪雨災害対策について

1) 流域治水の取組状況

・ 都田川ダム治水協定の締結

豪雨災害時に都田川ダムの貯水能力を最大限に発揮し、都田川の水害リスクを軽減するため、ダム管理者や利水者の協力を得て、本年 8 月に治水協定を締結した。

・ 天竜川流域治水プロジェクトへの参画（水災害対策プラン策定）

近年、豪雨が局地化、集中化、激甚化している中で、下流からの河川改修のみでは対応が困難な上流域の内水浸水に対して、現在策定中の「浜松市総合雨水対策事業」（仮称）との連携により治水対策を進める。

特に、近年、浸水被害が頻発する安間川、馬込川、堀留川では、効果的な減災対策を講じるため、気候変動も考慮したうえで、各地域の特性を踏まえた総合的治水対策を推進する「水災害対策プラン」を浜松市と連携して策定する。

なお、各対策内容は、国縣市が連携する「天竜川（下流）流域治水協議会」の検討のなかで「天竜川流域治水プロジェクト」に位置付け、流域が一体となって総力戦で治水に取り組む。

2) 大規模氾濫減災協議会

施設では防ぎきれない大洪水は発生するとの意識のもと社会全体で洪水氾濫に備えるため、国、県、市町などの関係機関を構成員とする、「静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会」を設立しており、重点項目を設定するとともに施策の調整を行い、引き続き、ハード・ソフト一体となった対策を各機関連携のもと総合的に推進していく。

3) 河川改修

・整備計画に基づく改修の進捗状況

馬込川、安間川、堀留川、神宮寺川などの一定計画に基づく改修を粛々と進める。

・防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策等

「国土強靱化3か年緊急対策事業」やこれと連携した県単独事業「災害等予防保全緊急対策事業」などを活用し、気田川、阿多古川、都田川などにおいて既存施設の機能の最大化を狙った堆積土砂の除去や流下阻害となっている樹林の伐採を進める。築堤部においては越水に対しても堤防が粘り強く持ちこたえるよう堤防天端舗装を進めている。

・国土強靱化に関する新たな5ヶ年緊急対策

令和2年度補正予算から令和6年度までの5ヶ年で、堤防が破堤した際に甚大な被害を及ぼすおそれのある河川（都田川、気田川、阿多古川）を中心に、既存施設の機能向上も含めた老朽化対策や、さらなる流下能力を図る堆積土砂の除去を行い、国土強靱化を推進するとともに、一定計画に基づく改修も加速化させる。

4) 円滑な避難活動に資する対策

・水位周知河川の指定、洪水浸水想定区域図の公表

水位周知河川について、本年度末までに新たに天竜区の3河川（気田川、二俣川、水窪川）を指定し、来年度からは市内10河川において氾濫危険水位等の水位情報を提供する体制を構築していく。

一級水系（5河川）：安間川、阿多古川、気田川、水窪川、二俣川
二級水系（5河川）：馬込川、芳川、都田川、井伊谷川、釣橋川

また、あわせて、これら河川の水害リスクを「見える化」するため洪水浸水想定区域図を公表し、浜松市防災マップで活用いただく。

さらに、令和元年台風19号の被害を受け、水防法に位置付けられていない河川についても、国及び県において簡易な手法による氾濫推定図の作成を進めている。

・水害リスクコミュニケーション

住民自らが水害の危険性に緊迫感をもち、いざというときの我が事として命を守る避難行動に結びつくよう、災害リスク情報等を丁寧に伝え、水害の理解を深める水防災講座を、浜松市と連携して開催している。

本年度は、破堤時には甚大な被害が想定される都田川を対象とし、7月に自治会長会議で講座の趣旨や概要を説明したのち、地元から講座開催の要望があった細江町中川地区の住民20名を対象に講座を開催した。

同講座の検証を踏まえ、引き続き北区を中心に各地域で講座を開催していく。



① 国道1号並走区間



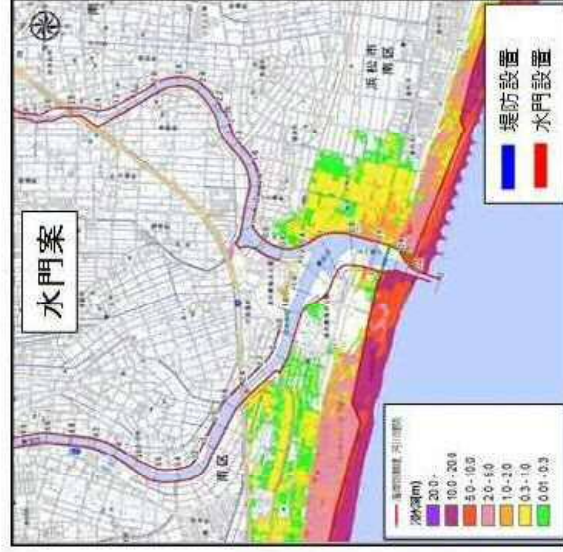
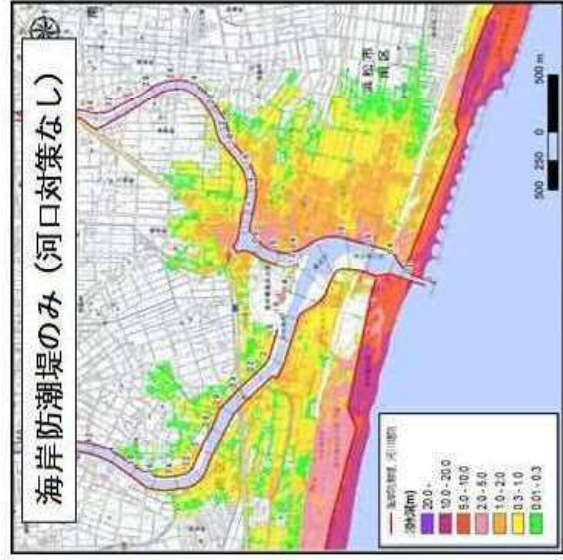
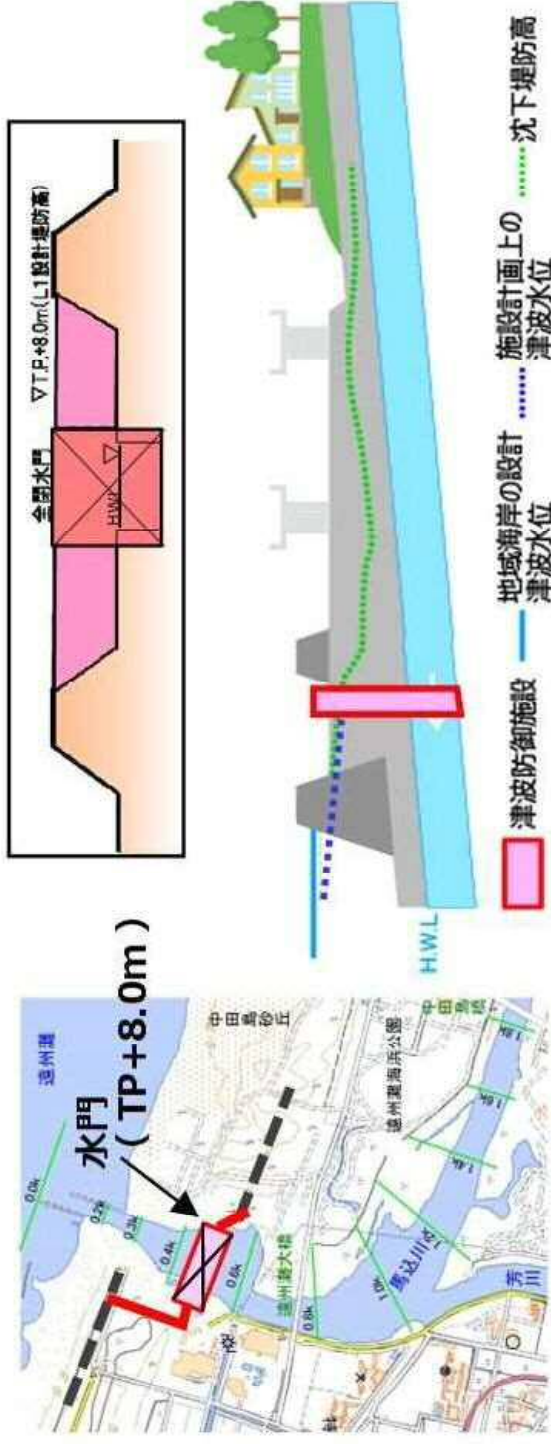
② 海岸防災林区間 (篠原)



③ 中田島砂丘区間



④ 海岸防災林区間 (五島)



L2津波に対する浸水面積の低減率

宅地の浸水区域	89%
宅地の浸水深 2m以上の区域	98%

(参考：海岸防潮堤の防護水準)

宅地の浸水区域	80%
宅地の浸水深 2m以上の区域	98%

河川管理者（静岡県）、ダム管理者（静岡県）、関係利水者は、都田川における水害の発生防止等が図られるよう、**都田川ダムの洪水調節機能の強化を推進する治水協定を本年8月に締結した。**



貯水池容量配分図



静岡県における流域治水の取組

0080 CLUB

4 LOVE

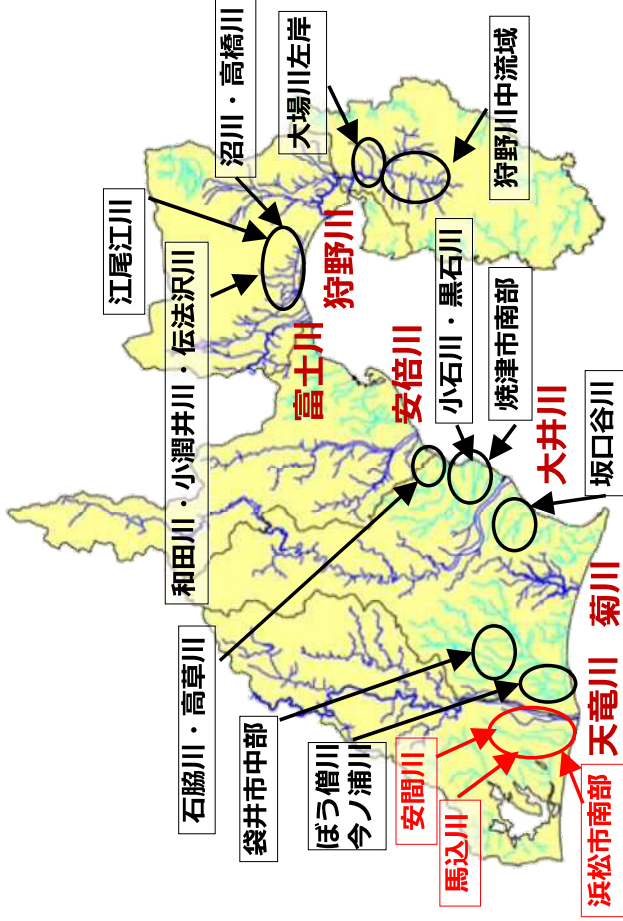
概要

＜河川砂防局＞

- ◎ 国土交通省では、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」へ転換を図るため、静岡県内の一級水系（6）において、「流域治水プロジェクト」を今年度中に策定予定。
- ◎ 静岡県としては、国と連携・協力していくとともに、二級水系については、まずは浸水被害が頻発する14地域で流域治水の考え方を取り入れた防災・減災対策を検討。

静岡県の「流域治水」検討

- R2年度～R3年度に14地域で検討
- 気候変動の影響も考慮した検討



	検討地域
R2年度【8地域】	狩野川中流域、大場川左岸・石脇川・高草川、小石川・黒石川、焼津市南部、坂口谷川、馬込川、安間川
R3年度【6地域】	沼川・高橋川、伝法沢川・和田川・小潤井川、江尾江川、袋井市中部、ぼう僧川・今ノ浦川、浜松市南部

【流域治水の考え方】

- ① 氾濫をできるだけ防ぐ対策
 - ② 被害対象を減少させるための対策
 - ③ 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策
- ⇒ハード・ソフト一体で多層的に推進

国土交通省

天竜川（下流）流域治水協議会【協議会】【幹事会】

天竜川（下流）流域治水プロジェクト



静岡県

浜松市

浜松市流域治水対策推進協議会

【協議会】【幹事会】【作業部会】

水災害対策プラン

【対象河川】

安間川（R2）

馬込川上流（R2）、馬込川下流（R3）

堀留川（R3）

安間川中流

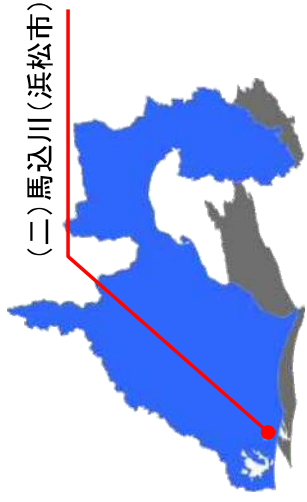
五反田川、高塚川

堀留川上流、堀留川低平地、鴨江排水路

貉川、東芳川、芳川第二

寺脇西、九領川、曳馬川・新川

流下障害や局所洗掘等による洪水氾濫に伴い、著しい被害が生ずる恐れのある箇所において、樹木伐採、河道掘削により流下能力を向上させ、背後地に位置する人家等の浸水被害の防止・軽減を図る。



広域図



①

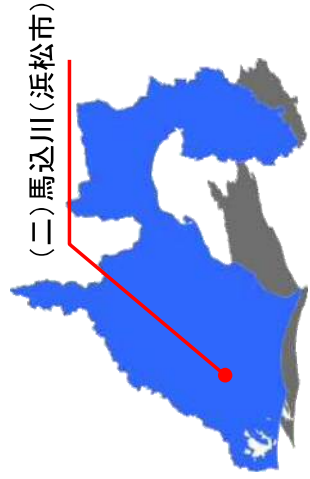


②

樹木伐採・掘削イメージ



越水等が発生した場合でも決壊までの時間が少しでも引き延ばす粘り強い堤防を作り、背後地に位置する人家、学校、工場等の浸水被害の防止・軽減を図る。



広域図



① 着前



① 着後

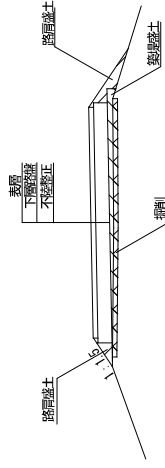


② 着前



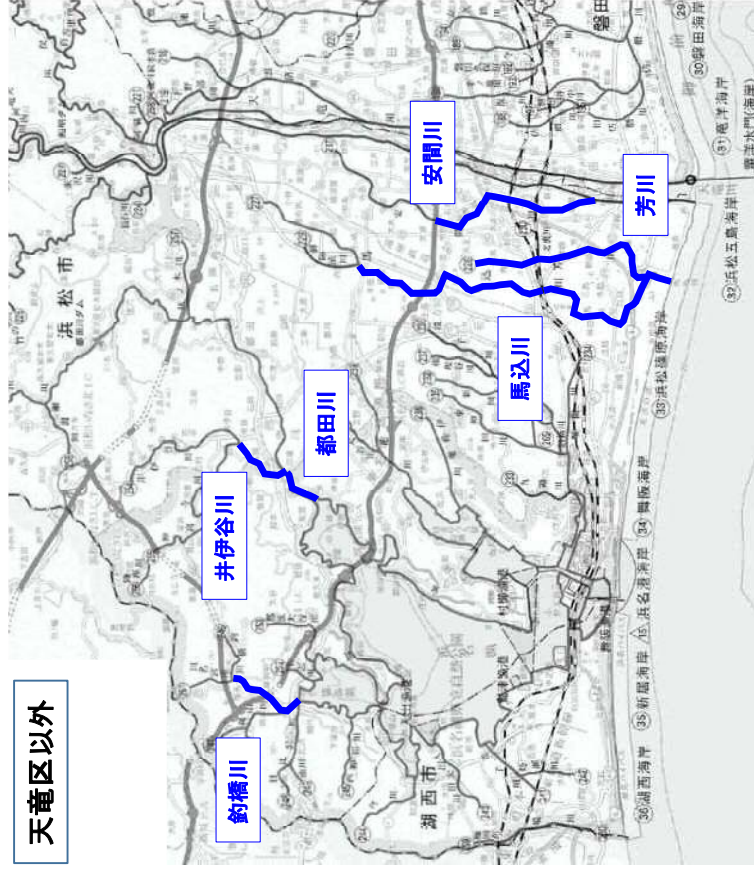
② 着後

横断図イメージ
(A-A')

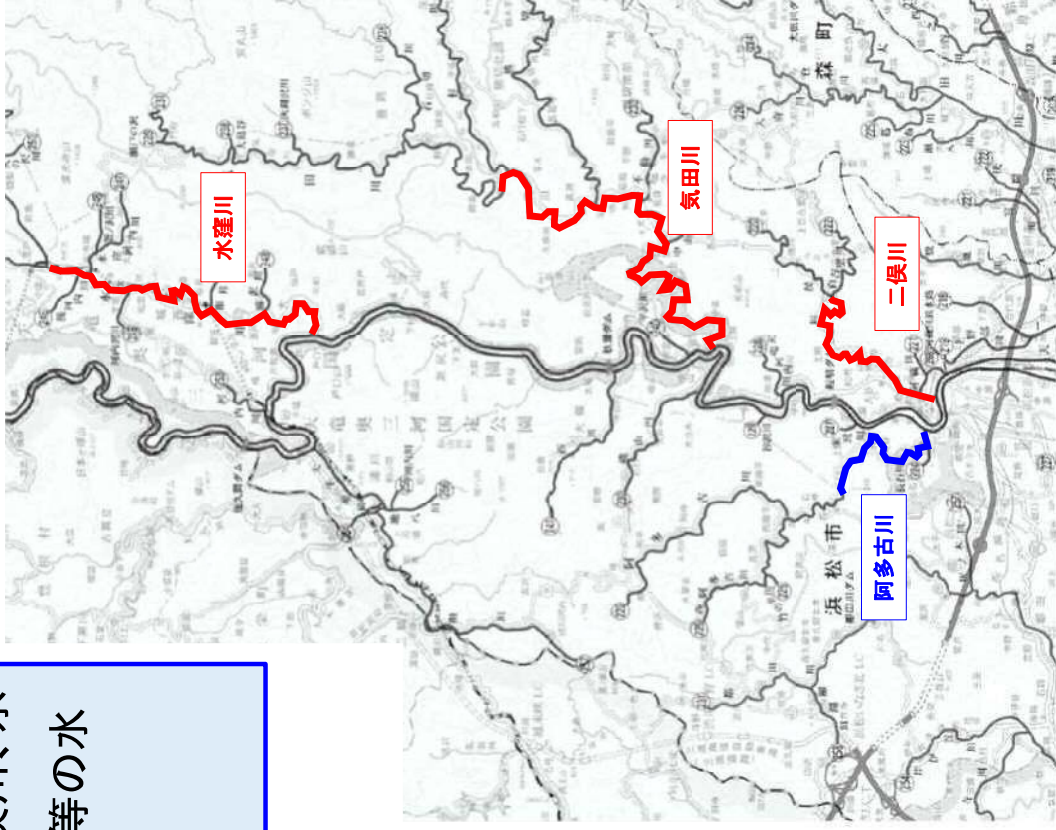


本年度末までに新たに天竜区の3河川（気田川、二俣川、水窪川）を指定し、市内10河川において氾濫危険水位等の水位情報を提供する体制を構築（同河川における洪水浸水想定区域を公表）

天竜区以外



天竜区

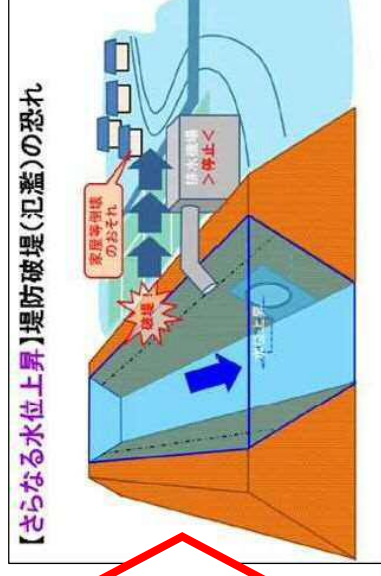
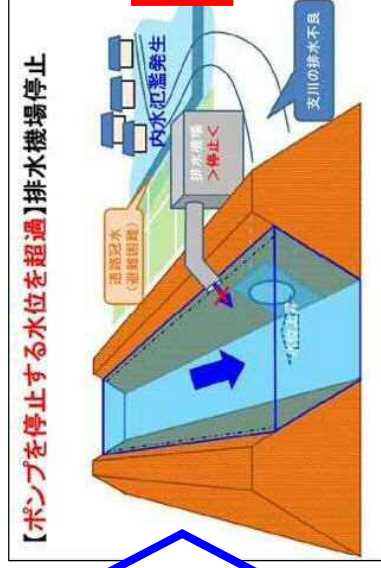
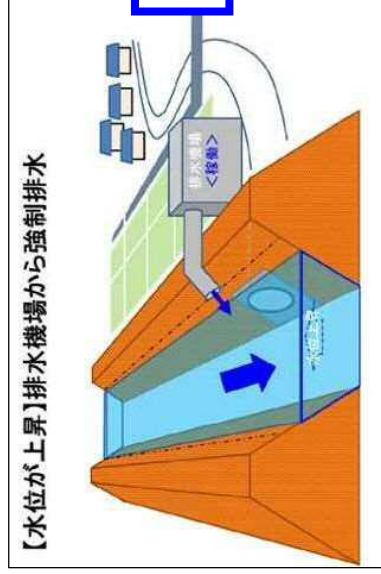


指定済み河川

今年度末指予定河川

住民自らが水害の危険性に緊迫感をもち、いざというときの我が事として命を守る避難行動に結びつくよう、災害リスク情報等を丁寧に伝え、水害の理解を深める水防災講座を開催

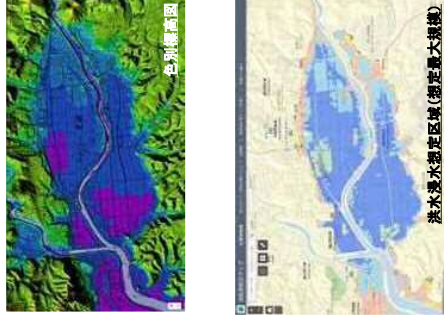
水害の危険性や進み方を分かりやすく説明



水害リスクの「見える化」を工夫



50cm浸水するとどうなるか？



地元住民と共に水害リスクを知り 避難を考える